

伝統文化教育専攻

書道教育専修

書道という伝統文化を用い、情緒豊かで社会に貢献できる生徒を育成する教員を育てます。

学びのポイント

1 奈良という恵まれた環境

奈良は、書道に関する文献資料が、正倉院をはじめ、多くの寺社や博物館に納められており、公開の機会は多くあります。また、墨や筆の製造は奈良がわが国を代表するものであり、ことに製墨業においては現在も全国生産の殆どを担っています。その製作過程を見学し体験することも可能です。このように、奈良は書道を学習する者にとって最も適した環境にあると言えます。



2 高等学校芸術科書道の免許取得

書道教育専修では高等学校芸術科書道の免許が取得できます。高校現場で直ぐに教育実践できる力を養うため、漢字・仮名・漢字仮名混じり文・篆刻・生活書式法・中国書道史・日本書道史・書道理論・書道科教育法などの指導力を培う授業が展開されています。

3 書家としての実力をつける

学外では、全日本高校・大学書道展で毎年最高賞を受賞したり、日本学生・生徒・児童書道展覧会(通称「日本学書展」)で上位入賞し、学内では奈良教育大学書道展、各回生別学内展などを催し、作品制作力を養成します。

学びの領域

芸術科書道教員としての資質を磨く3つの領域

2年次までに各領域の基礎を学び、3年次以降は各自が専門領域に選んだ研究室で学び、その成果を卒業論文としてまとめます。



書道教育専修の授業スケジュール My Schedule

| | MON | TUE | WED | THU | FRI | 集中講義 |
|--------|--------------|----------|-------------|------------|------------|--------|
| 1・2時限 | | 漢字造形論 | 中等教科教育法(情報) | | 日本文学史Ⅰ | 仮名創作法Ⅱ |
| 3・4時限 | 書道(書写を中心とする) | 博物館教育論 | システムプログラミング | | コンピュータ情報処理 | |
| 5・6時限 | | 書道理論 | | 漢字条幅研究 | 生徒指導・教育相談Ⅱ | |
| 7・8時限 | | 博物館資料保存論 | | 学校指導と学校図書館 | | |
| 9・10時限 | | | | | | |



書道(書写を中心とする)
正しく整った文字の書き方を習得し、「書写」を指導できる力量を身につけます。



書道理論
様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立します。



漢字造形論
漢字造形の基本を楷書を通して学んだり、行書、草書を通して流麗美・文字群としての造形美を学びます。また、半紙から半切へと紙の大きさを変え、条幅作品の基礎力を養います。

Student's Voice 在学生の声

「歴史ある古都奈良で学ぶ」

書道教育専修3年生
永井 唯花さん
(長野県 歴代高等学校出身)



書道教育専修では、筆で文字を書くだけでなく、歴史や作品研究など、様々な視点から書道というものを学んでいます。書体の基礎から、発展した作品制作まで幅広く学習することができます。また、授業外の活動の一環として、年間を通して数多くの展覧会に出品することはもちろん、歴史的建造物や美術館へ赴き文化に触れるという古都奈良だからその学習活動を行っています。

また教育実習の他に、フレンドシップ事業で実際に全国の高校生を前に、学生自ら書道を教える機会があり、将来教員を目指す私たちにとっては、有意義な経験になります。

先生方のご指導も厚く、志を同じくした仲間にも恵まれ、さらに自身を高めていくには素晴らしい専修であると思っています。

主な開講科目

- 楷書法/仮名書法論/書道史Ⅰ/行書法/古筆研究Ⅱ
- 篆刻法/漢字条幅研究/仮名創作法Ⅰ/書道理論
- 漢字作品研究Ⅰ/仮名作品研究Ⅱ/生活書式法

取得できる免許状
・高等学校教諭一種(書道)等(P.8,9「取得できる免許状・資格」のページ参照)

卒業後の主な進路
過去の卒業生の内大学教員になったものは30名以上、また、奈良県下、大阪府下共に、高等学校書道教員の半数以上が本学出身者であるという実績があり、ここ数年の卒業生は、小・中・高等学校の教員や、期限付き教員として採用されました。その他、公務員、企業、大学院への進学などです。

教員および専門分野(平成29年5月1日現在)

- ・福光 佐今教授/書道
漢字書法全般についての研究
- ・吉川 美恵子特任教授/書道・仮名
仮名書法全般についての研究
- ・豊田 宗規教授/漢字:古代文字
漢字書法、古典文字・篆刻についての研究
- ・谷川 雅夫教授/書道史・書道理論・書道教育
中国書道史、日本書道史、書道理論、書道教育についての研究